

東北森林管理局

森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

平成28年度の技術開発課題の進捗状況について報告します！

課題4 低密度植栽試験について

平成26年度から技術開発課題として、低密度植栽試験を行っています。低密度植栽は苗木や植栽費用だけでなく、保育間伐の省略等、林業の低コスト化に向けて、全般的な費用の縮減につながるが見込まれ、短伐期化等林業経営の改善も期待されます。また、育成過程において、一定程度の広葉樹の侵入も想定されることから、生物多様性の確保にも効果があると思われます。このため、植栽木の生存率や成長・材質への影響、生物多様性の程度を明らかにするため、スギ・カラマツの低密度植栽を検証しています。

今年度の進捗状況について、お知らせします。今年度試験地は8箇所低密度植栽試験を実施しています。すべての箇所について、雪害・植栽木成長調査を終え、7月からは筋刈り功程調査を実施中です。今後は植生調査や活着調査、植栽木成長調査を実施する予定です。

課題5 ヒバコンテナ苗による低コスト育林手法の開発について

平成27年度から技術開発課題として、ヒバコンテナ苗による低コスト育林手法の開発を行っています（以下、ヒバコンテナ苗試験）。ヒバのコンテナ苗の育苗、植栽、育林方法の実証試験を行い、コンテナ苗の改良と、ヒバのコンテナ苗による植栽、育林方法の効率化の手法の開発を行っています。

今年度の進捗状況について、お知らせします。今年度新たに試験地が3箇所増え、6箇所ヒバコンテナ苗試験を実施します。2年目の箇所については雪害調査を終え、秋から植栽木成長調査及び根の伸長状況調査を実施する予定です。一方、初年度の箇所については9月以降に植付調査を実施する予定です。

夏の時期、森を歩いていると不思議な植物に出会えます。透明な植物のギンリョウソウ（銀竜草）（写真）。その形が銀の竜に見えることから名前がついたとか。別名、幽霊に似ていることからコウレ



イタケとも呼ばれているそうです。通常、植物は光合成するために葉緑体を持っていますが、この植物はもっておらず、見てのとおり真っ白で自ら光合成ができません。では、どこから栄養をもらっているのでしょうか。林床には菌糸が無数に広がっており、それを介して菌類から栄養を得ているのです。これらの植物は腐生植物と呼ばれています。この夏の時期に森を歩き、ふと林床をながめて、この不思議な植物に出会ってみてはいかがでしょうか？

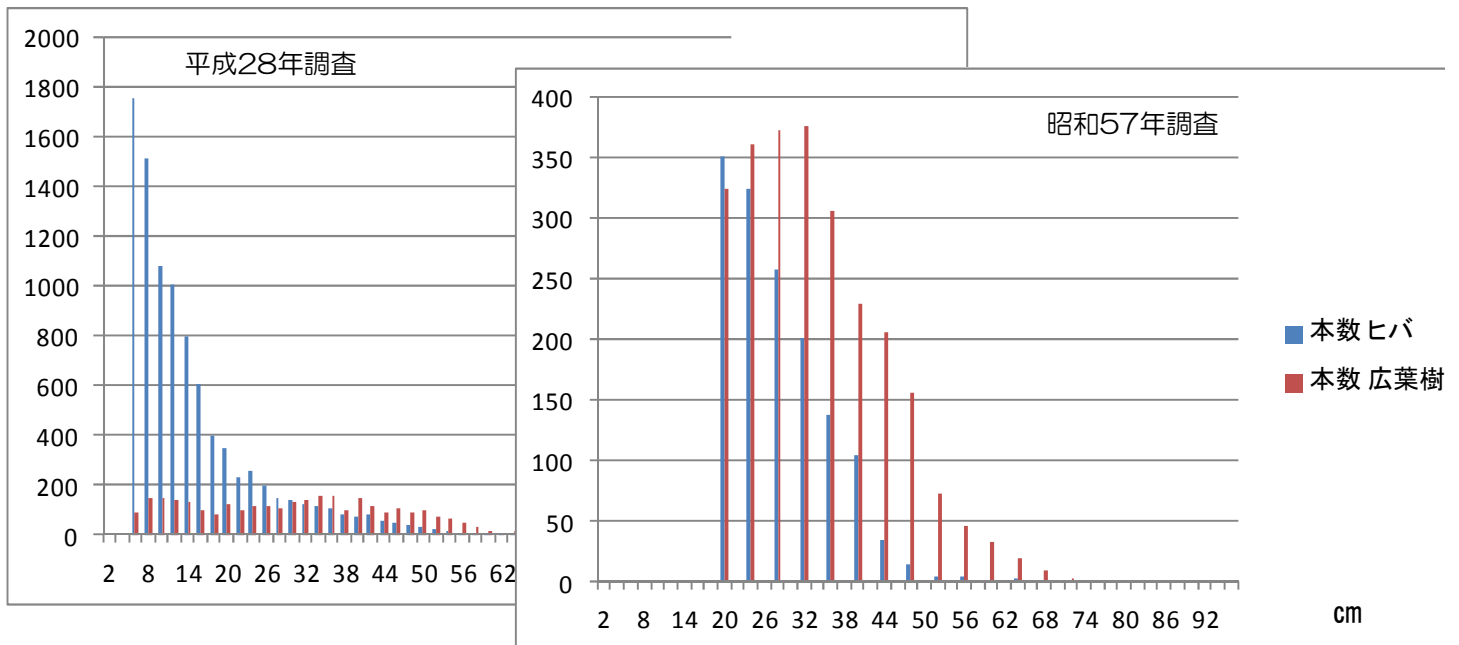
森をさんぽ

森林技術専門官
増田 悠介

増川ヒバ施業実験林の現地調査の状況について

増川ヒバ施業実験林では、松川恭佐氏の施業法を経営的に実証する択伐施業が行われてきました。しかし、中小径木が主体の林分が増えてきたことから、大中小径木がバランスよく配置された林分に誘導するため、間伐等を実施するという施業方針のもと、毎年計画的に全本数調査やその結果に基づき森林施業を実施しています。

この実験林は旧1～10林班の林分状況を把握するために、毎年旧1林班ずつ全本数調査を行っています。今年度は、6月に青森森林管理署、青森事務所および当センターが合同で旧3林班の約11haで全本数調査を実施し、径級別本数及び林分蓄積等の状況を取りまとめています。下表は昭和57年調査時との比較ですが、広葉樹等の択伐を経て、ヒバ林が小径木から中径木に移行するとともに、後継樹も順調に生育しています。



岩手大学演習林視察について

平成28年6月10日(金)に岩手県滝沢市にある岩手大学滝沢演習林を視察しました。岩手大学滝沢演習林は盛岡市の北に位置し、アカマツ、コナラなど主体とした2次林で面積は約281haになります。今年度、新規の技術開発として、早生樹についてすすめており、岩手大学演習林にある広葉樹の見本林にあるユリノキ及びイチョウを視察しました。演習林にあるユリノキは55年生の林分と40年生の林分2種類あり、40年生の林分は1000本/haで植栽、10年前の調査で平均胸高直径26cm樹高22mであった。一方、55年生の林分は2750本/haで植栽、10年前の調査で平均胸高直径25cm樹高22mであった。施業履歴については、記録が残っていないが間伐等は行われており、旺盛な成長を示していました。主伐後の植栽木の候補として、早生樹の適性や特性について調査を進めていきます。

森林技術・支援センター 現地検討会の開催日決定!

9月6日(火)
「コンテナ苗低密度植栽試験」
由利森林管理署管内

9月27日(火)
「一貫作業システム」
宮城北部森林管理署管内



編集後記

今夏は7月末から例年になく暑～い夏が続いていますね。皆さん、体調管理は万全ですか？当センターにもこの暑い夏がインターンシップ研修生と共にやってきました！職員5名に研修生5名と職員達は頑張りました。

さて、9月にはセンター主催の現地検討会が2回開催されます。この準備もさることながら、技術課題の調査にも余念がありません。別添のインターンシップ特集もご覧ください。

